

年間聖句

「恐れるな、わたしはあなたと共にいる。」
イザヤ書43章5節より



YMCA国際協力募金 ～やさしくつながりつづける～



神戸キリスト教青年会国際委員 廣瀬 猷児 さん



「YMCA国際協力募金、よろしくお願いします」

神戸の街角でこのフレーズをお聞きになったり、街頭で募金箱を抱えながら声を上げたりした方も多いのではないのでしょうか。いつもは国際社会についてあまり考えていない私も、この魔法のフレーズは不思議と自然に口から出てきます。

YMCAの「みつかる。つながる。よくなっていく。」は「国際的」であることが当たり前のようです。外国へキャンプに行った、留学生と友だちになった…といったダイナミックな経験ができるのはYMCAの素晴らしいところです。それだけでなく、YMCAの国際交流活動の素晴らしさは、分断や困難が深まる中でも、国の内外にかかわらず、互いにつながり続けたいという願いが共有されているところにあると思います。

皆さまからお預かりした国際協力募金の使途についてふれさせていただきます。近年、争いや自然災害が激しくなる中で活動する現地YMCAへの送金が必要な割合を占めています。インフレや円安などの難しい状況が重なっているものの、YMCAの顔と顔、手と手のネットワークが、支援を確実に届ける役割を果たしています。

また、外国のYMCAと共催するワークキャンプや、国際奨学金等のユースエンパワメント活動、パレスチナにオリーブの木を送る活動にも継続的に取り組み続けています。ユースと共に新しくつながっていく、そしてつながり続けるYMCAらしい活動が、多面的に展開されています。

上述の使途については、ボランティア委員と担当職員で構成される神戸YMCA国際委員会の定期的な会議で議論しています。会議では、世界のYMCAから寄せられる情報や、各々の専門性や知見を持ち寄るだけでなく、分け隔てのない心地よい社会を作っていきたいという願いを共有しています。

YMCAは私たちとやさしくつながり続けています。YMCA国際協力募金活動に、ぜひご参加ください。



課外活動のいもほりに参加する留学生

※昨年度のYMCA国際協力募金報告を8ページに掲載しています。

歌声でつながる平和への願い

7月12日(日)、奈良YMCA混声合唱団「コール・マスキール」と神戸YMCA混声合唱団「くさぶえ」による合唱交歓会が開催されました。

歌は「平和だからこそ歌える」という意味で平和の象徴であると同時に、人と人の心を結び、平和を育む力を持っています。阪神・淡路大震災の後に歌い継がれてきた「しあわせ運べるように」など、多くの歌が時代を越えて人々に希望と勇気を届けてきました。当日披露された「いのちの歌」もまた、命の尊さ、人と人のつながりへの感謝を伝える一曲です。

この交歓会が新たな絆を育み、歌声が平和への願いを広げる機会となったことをうれしく思います。両団体の温かな活動が、これからも末永く続いていくことを心より願っています。





No.8

子育ての不安…その③ ～自立へのアプローチ～

総主事 小澤 昌甲

キリスト教をベースにした欧米社会では、他者を受け入れる、他者とお互いに依存し合えるという人間関係が確立しており、家庭では「個としての自立」を強く意識した子育てが行われます。赤ちゃんのうちから別室で寝かせ、夜泣きをしてもすぐに抱っこしたり添い寝をしたりはしない、というのはよく耳にする話です。

伝統的な日本の子育ては対照的で、「川の字」で添い寝をし、泣けばすぐに抱っこやおんぶをするなど、子どもの要求に徹底的に応える。望んだことを望んだ通りに叶えてもらう経験を重ねることで、子どもは大人（保護者、先生）への絶対的な信頼を抱きます。これが後に「自己肯定感」や「人を信じる力」の頑丈な土台になります。十分に甘え切った子どもこそ、ある日突然、大人（保護者、先生）の手を振り払い、自分の足で歩き出す（＝自立する）と言われます。

前回の繰り返しになりますが、乳幼児期（特に3歳頃まで）に存分に依存させることで「心の貯金」を作り、成長するにつれて少しずつ「社会のルール（しつけ）」を伝えていくことが必要です。「早く自立させたい」と焦るあまり、土台（甘え）がないまま建物を建てようとしなことが大切です。愛されているという安

心感こそが、子どもを自然と自立へと向かわせる力になります。無理やり自立を促されると、心の根っこに不安や自己否定感が残り、大きくなってから歪みが生じるリスクもあると経験から感じています。

「小学生になると、思い通りにならない経験をさせてあげてください」。私がYMCA保育園で勤務をしていた時に、卒園児の保護者にお伝えしていた言葉です。小学生、特に7歳から10歳前後は、大人（保護者、先生）に依存する世界から、仲間（友だち）を中心とする世界へと踏み出していきます。家庭が「甘えられる安全基地」であれば、「もう小学生なのだから自分で」と急かさなくとも、外の世界（学校や友だち関係）で冒険や挑戦ができます。

「家では悪い子<甘える子>ですが、外では良い子なんです」と卒園児の保護者からお話を聴くことが多々あります。「お家でしっかりと育てておられますね。反対を想像してみてください」と笑い話をします。自分の思い通りにならなかったり、友だちと比較して落ち込んだりと、挫折や失敗、葛藤を経験する大切な時期を、大人が無理に排除せず、温かく見守ることが重要だと私は捉えています。

……次号へつづく。

ミッション委員会

毎年11月の第2週目の日曜日を起点とする1週間を合同祈禱週とし、1904年以来毎年、世界中のYMCA・YWCAに連なる人々が共に祈りの時を持っています。

昨年の「世界YMCA／YWCA合同祈禱週2025」のテーマは「ヨベルの年の祝祭；祈りと行動の150年（Jubilee-150 Years of Prayer in Action.）」でした。神戸では日本キリスト教団龍野教会の車田誠治牧師をお招きし、「愛されんだあ！（I surrender）」という題でお話をいただきました。

今年は11月8日（日）から14日（土）が祈禱週として定められており、11月17日（火）9時から神戸YMCA 2階チャペルにて神戸YMCA・YWCA合同礼拝を守ります。

ぜひご参加ください。



神戸YMCA／YWCA合同祈禱週



昨年の様子：車田誠治牧師（日本キリスト教団龍野教会）

神戸YMCAランゲージセンター

神戸YMCAランゲージセンターでは、7月8日（水）から22日（水）まで、14泊15日の「夏期集中コース」を開催しました。午前中は日本語を学び、午後は姫路城の見学や浴衣を着て神戸港を散策するなど、日本の文化や観光を楽しみました。滞在期間中にホームステイを体験し、日本の家庭での暮らしや交流を楽しんだ参加者もいました。

写真は、神戸YMCA高等学院の美術の先生の指導による「だるま作り」の様子です。アニメをヒントに

したものや、おしゃれなデザインなど、一人ひとりの個性が光るだるまが完成。驚くほどの集中力で制作に取り組み、思い出に残る素敵なお土産となりました。

日本でのさまざまな体験を通して、日本語の力も大きく伸びました。修了式では再会を約束し、別れを惜む姿がありました。ここで生まれた小さな国際交流が、それぞれの場所で広がり、多文化共生の社会につながっていくことを願っています。



日本語を学び、日本を楽しむ15日間

西宮市立香櫨園小学校放課後キッズルーム

香櫨園放課後キッズルーム（放課後キッズ）は、西宮市の小学校内施設を利用した放課後の見守り事業として、西宮市から委託を受けて運営しています。市が設置している放課後児童クラブとは異なり、校区内在住であれば年間保険料のみで利用できます。現在は400名を超える小学生が登録し、放課後の時間を自由に過ごしています。

毎日100人近い子どもが集まり同じ場で過ごしていると、めめ事が起きることも、それを乗り越えることも日常的に繰り返されます。子どもたちにかかわる大人はそれを見守り、時には厳しく、時にはおじいちゃ

んのように甘く、時には近所のおばちゃんのようにおせっかいなほど声をかけます。また、大学生のお兄さんお姉さんは全力で子どもたちの遊びに付き合っています。

これは指導や教育、保育ではなく、かつて家の周りで、近所の路地や空地で見られた子どもを取り巻く日常の風景です。過去を美化するのではなく、今の社会状況の中でも残さなければならない大切な機能とは何かを考える必要があります。放課後キッズも、子どもを取り巻く地域の機能の一つとして、これからどのように歩んでいくのかを改めて考えていきたいと思います。

当たり前の日常を守る大切さ



R E P O R T

キャンプサービスセンター

目指すキャンプ、その先の未来へ

今年6月末に開催された「神戸キリスト教青年会総会」にて、リーダー会の会長がすべての参加者に問いかけたのは「皆さんは、余島キャンプ場閉場の責任をどう具体的に果たしていきますか?」という言葉でした。そして「戦争責任の告白から始まった余島キャンプは、今年で76年目になります。場所は変わっても、私たちリーダーは、余島で培われた精神を何一つ変えることなく受け継いでいきます」と、声を震わせながら力強く語りました。

私たちが「目指すキャンプ」は「目指す社会」です。夏を迎え、日本海・瀬戸内海・太平洋と、それぞれの海でキャンプを行ったリーダーたち。自らの力不足と向き合い、これから子どもたちの未来を見据え、苦悩しながらも今年も変わらぬキャンプを体現しました。その姿には1950年から受け継がれてきた先人たちの魂が宿っており、まさにYMCAそのものでした。この若者たちに恥じないYMCAでありたいと強く願った夏でした。



ウエルネスセンター学園都市

みんなの憧れ、ボランティアリーダー!

ウエルネスセンター学園都市には、3歳児から中学生までを対象としたキッズダンス(キッズクラス・ジュニアクラス)と、中学生以上を対象としたAdvanced Danceクラスがあります。キッズダンスのクラスでは、ボランティアリーダーが活躍してくれています。高校2年生の西野優那さんです。

西野さん自身もAdvanced Danceクラスでダンスに取り組みつつ、水曜日のジュニアクラス、土曜日のキッズクラス・ジュニアクラスではリーダーとして子どもたちのサポートを行っています。

そこで、西野さん自身にリーダーとしての「目標」を聞いてみたところ、「みんながダンスに来たいと思ってもらえるような雰囲気を作ること」と話してくれました。

今年度もさまざまなダンスイベントが控えています。子どもたちのお手本となり、憧れの存在でもある西野さんのリーダーとしての成長を、これからも見守っていききたいと思います。



にしの ゆうな
西野優那さん(右から2人目)

令和8年熊本地震の被災者支援

2026年7月28日に発災した令和8年熊本地震において召天された方々の御霊の平安をお祈りいたします。また、被災された皆さま、救助、救援、復興に携わる皆さまのお見舞いと、ご健康をお祈りいたします。

神戸YMCAでは7月31日より職員を派遣し、現地の視察と支援の検討に入りました。8月中旬から被災者の生活支援に職員を順次派遣し、くまもと災害ボランティア団体ネットワークの皆さんと共に生活復興を支援しています。また、必要な方々への物資支援活動の継続のために、災害支援募金を継続して受け付けています。皆さまのご協力とご支援に感謝するとともに、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

<神戸YMCAは、日本YMCA同盟と共に、JVORD(日本災害ボランティアネットワーク)に加盟する団体として、災害支援活動に携わります>



<令和8年熊本地震緊急支援募金QRコード>



こくさいのまど

時を重ねて、大きな森に育つように

今年の6月、約20年前に日本語教師ボランティアとして2年間を過ごしたタイのチェンマイYMCAを改めて訪れる機会をいただきました。うれしかったのは「みんなそこにいたこと」でした。かつて共に活動したスタッフは今も地域に根差して働き、小さかった子どもたちは大人になってYMCAを支えていました。ここで出会った友人たちも駆けつけてくれ、あたたかな再会に胸が熱くなりました。

30年以上続いた神戸ーチェンマイYMCAユースワークキャンプにかかわった若者たちも、その経験を糧に、それぞれの場所で今もタイとのつながりを大切にしています。私自身もまた、その歩みの中にいるこ

とを実感しました。

今回はチェンライ県にも足をのばし、現地のグリーンアクション(環境の保全と回復、地域の暮らしを豊かにし、人のつながりを育てる活動)を視察しました。村人たち、行政、企業、学校、宗教指導者、YMCAスタッフ、ユースまで、多様な人々がかかわり合い、活動を支える大きな力になっていました。

木は、植えたその日に森にはなりません。時間をかけて育ち、新しい芽を育みます。神戸YMCAとチェンマイYMCAの交流も、そのように時を重ねながらつながっていく歩みののだと感じました。

西神戸YMCA職員 川北 陽子



YMCA STORY

半世紀を駆け抜けて

神戸YMCAで仕事を始めて50年が過ぎようとしています。定年を迎え、再雇用期間も終え、今も週2でお世話になっております。気づけば昭和、平成、令和と三つの時代をYMCAと共に過ごしてきました。もう少し頑張ってみようと思いつつ今日に至ったのが正直なところです。

YMCAから事務職の採用通知をいただき安堵したことを思い出します。YMCAと言えば英会話学校という印象でした。とにかく若い人が多く活気にあふれたところで、職員の方々は親しげにお互いを「さん」付けで呼び合っていて、一般の会社とは違うな、おもしろそうなおところだなあ、そんな感じでスタートしました。

青年成人会員、英会話科、ホテル学科の担当として何でも体験しようと思いました。仕事のかたわら、一会員としてプログラムやクラスに参加してYMCA理解を深めようと努めていました。仕事をする上でプラスになったのではないかと思います。

時は移り、学園都市に新しい会館を開設する準備、その後はオープンスタッフとなり、毎日があっという間でした。仕事に、家庭に、子育てにと、気づけば10年余りが過ぎていました。

一番大きな転機はYMCA保育園への異動です。異動からかれこれ20余年になります。担当は

YMCA保育園職員 藤井 愛子

会計ですが、0歳から5歳までの子どもたちと朝から晩まで過ごす、まったく新しい世界で、就職したての頃のような新鮮な気持ちになりました。かつて自分の娘がお世話になったYMCA保育園に、今度は迎え入れる側として何かお返しができればいいかなとの思いでした。同じYMCAですが法人が違い、聞き慣れない言葉や規則、会計の仕方も違って戸惑いました。新人の気分で学ぶ機会はたくさんあり、研修も数多く受講しました。研修で学んだことがそのまま仕事の内容や質に影響を与えることになり、緊張感もありましたがやり甲斐も多く、充実感がありました。事務所の隣に0歳児クラスの部屋があり、泣き声を聴きながら仕事をしたり、ときどき抱っこを買って出て癒されたりもしました。入園しては卒園と、子どもたちの成長をそばで見られたことも、ここまで仕事を続けてこられた要因の一つではないかと思っています。

もちろん私一人の努力でできたものではありません。私たちをいつも見守ってくださる神様がいることで勇気づけられ、上司、先輩、同僚、後輩からの支えをいただいたことはもちろんのこと、家族、両親、夫の両親にも大変迷惑をかけ、大きな援助もいただきました。それがなければ不可能だったと思います。この場を借りて感謝申し上げます。

2025年度 国際協力募金へのご協力ありがとうございました

2025年度の神戸YMCA国際協力募金に、多くの皆さまから温かいご支援をお寄せいただきました。誠にありがとうございました。一般募金・指定募金を合わせた総額は当初の想定を大きく上回り、多くの方々が世界や地域で困難に直面する人々へ心を寄せてくださったことに、心より感謝申し上げます。お寄せいただいた募金は、長年継続している国際協力事業や国際理解教育に加え、ミャンマー地震や能登半島地震の被災地支援など、緊急支援にも大切に活用させていただきます。

神戸YMCAでは、緊急支援、継続的な伴走支援、人材育成・国際理解を三つの柱として、これからも一人ひとりの思いを確かな支援へとつないでまいります。今年度は、新たにアフガニスタン地震緊急支援募金も開始しています。世界各地で困難な状況が続く今だからこそ、支え合いの輪を広げていきたいと願っています。今後とも神戸YMCAの国際協力活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

神戸YMCA 遺贈制度

神戸YMCAを遺産の受取人に指定し、ご寄附いただく制度です。
神戸YMCAは創立以来、多くの方々の物心両面からのお支えによって子どもと若者を育む先駆的な働きを進めてまいりました。
大切な浄財（財産）を未来に遺し、幼い子どもや若者たちのために、そして社会に必要とされる活動を展開できるよう、神戸YMCAが責任をもって大切に役立ててまいります。

〈収入〉

募金内訳	
1) 一般募金（指定なし）	2,891,156
2) 指定募金	514,459
計	3,405,615

〈支出〉

日本YMCA同盟拠出金	300,000
東南アジア農村支援	100,000
定住外国人子ども奨学金	180,000
CODE・PHD 協会支援	200,000
神戸YMCA国際奨学金	480,000
国際活動リーダーシップ養成	500,000
オリーブの木／パレスチナ・ガザ支援	70,000
能登半島地震・水害支援募金	410,000
ミャンマー地震支援募金	754,459
開発・国際理解教育	261,156
事務局経費	150,000
計	3,405,615

神戸YMCAの使命

私たちは、イエス・キリストにおいて示された、愛と奉仕の生き方に学びつつ、すべてのいのちが尊ばれ、共に支え合う、公正で平和な社会を創ります。

ファミリーウエルネスセンター	☎078 (241) 7202
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
キャンピングサービスセンター	☎078 (241) 7216
国際・奉仕センター	☎078 (241) 7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401
西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
神戸YMCA高等学院	☎078 (793) 7435
YMCAおひさま	☎078 (793) 9077
西神南YMCA	☎078 (993) 1560

須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
神戸学園都市YMCAこども園	☎078 (791) 2955
神戸YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705
西宮つとがわYMCA保育園	☎0798 (26) 1016
あかしこども広場	☎078 (918) 6355
学園都市YMCA保育ルーム	☎078 (794) 3045
ユースプラザKOBE・EAST	☎078 (891) 8222

神戸市立太山寺児童館	☎078 (794) 4790
こべっこあそびひろば西神中央	☎078 (964) 5808
神戸市立高倉台児童館	☎078 (733) 6844
神戸市立たかとり児童館	☎078 (735) 6230
YMCA保育園おひさま分園	☎078 (794) 4080
おやこふらっとひろば西	☎078 (939) 4530
西宮市香櫨園留守家庭児童育成センター	☎0798 (33) 0214
西宮市用海留守家庭児童育成センター	☎0798 (35) 1522
西宮市浜脇留守家庭児童育成センター	☎0798 (34) 1444

ワイズコーナー

ワイズメンズクラブって何？

すぎもと たかひと
六甲部部长 杉本 隆人 さん
(神戸学園都市ワイズメンズクラブ)

いまさら何言ってるねんと思いますが、歴史を知ることから始めましょう。

YMCAが誕生したのは1844年、イギリスのロンドンで、ジョージ・ウィリアムズ氏ら12人の青年によって設立されました。産業革命期の過酷な環境にいた若者たちの生活と心を救うため、精神、知性、身体の調和ある成長を願ってスタートし、いまや120の国と地域に拡大しています。

日本では1880年（明治13年）に東京の数寄屋橋教会で東京YMCAが誕生、その2年後に大阪YMCAが誕生し、ここ神戸では、1886年（明治19年）に日本で4番目となるYMCAが誕生しました。

ワイズメンズクラブは、アメリカ・オハイオ州のトレドYMCAにて、ポール・ウィリアム・アレキサンダー氏を中心として実施された昼食会（ランチョンクラブ：1920）をきっかけに誕生しました。名前の由来は、YMCA（通称：The Y）のための人間（Y's Men）という意味。イエス・キリスト誕生の際にお祝い駆けつけた「東方の三博士（Wise Men）」の意味がかけられています。1930年（昭和5年）に神戸に最初にできたクラブが、神戸ワイズメンズクラブでした。

それでは、ワイズメンズクラブが具体的に何をしているのかを少し解説します。

YMCAの支援、国際理解や国際親善、地域社会への奉仕活動を目的としています。「強い義務感を持つ、義務はすべての権利に伴う」をモットーに、各地域、各YMCA、各クラブによって活動しています。ワイズメンズクラブは、YMCAと表裏一体の関係にあります。

YMCAが誕生した当時のように、現代社会は大きな変革期にあり、若者たちは過酷な環境下で居場所を探し求めていますし、語り合い、笑い合えることがない子どもたちが大勢います。地域社会においても、隣人と語り合える機会がどんどん少なくなり、大人の居場所作りも急務となっています。その中で、わたしたちが担うべきことは多岐にわたります。

遠くを見ることも大切ですが、まずは自分の足元から見て、何が求められているのかを感じ、行動することからスタートしましょう！迷った時は、原点に戻ることをお勧めします。

感謝（寄附・募金）

（敬称略、順不同）（前号掲載以降～8/13まで）

寄附

丸九 健四郎、株式会社白洋舎ユニフォームレンタル西部事業所、
神戸学園都市ワイズメンズクラブ、ワイズメンズクラブ六甲部

子ども奨学金

田中 邦康

国際協力募金

小泉 啓子

ベネズエラ地震緊急支援募金

山本 常雄、牧田 稔、島田 恒

令和8年熊本地震緊急支援募金

山根 泉、宗行 孝之介、片山 里花、佐藤 香菜子、進藤 啓介、
松田 道子、田辺 征一、山本 常雄、松本 祐子、杉山 秀光、田村 光、
財部 仁子、福井 真佐代、ミヤハラ アカネ、ゴノ タカミツ、
株式会社サーブネット、サンヨー環境株式会社、
社会福祉法人頌栄会西鈴蘭台頌栄保育園施設長 稲付 容子

この他にも、多数の寄附・募金等をいただいております。
感謝をもってご報告いたします。

